

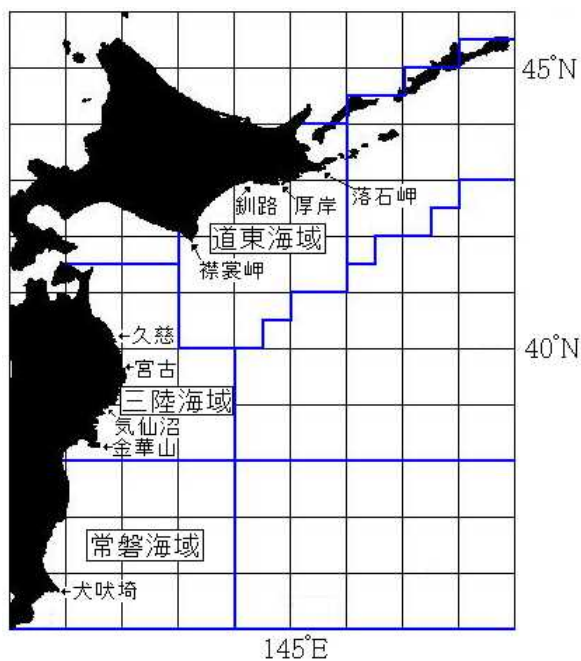
2019年度 第4回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2019年10月中旬～11月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月中旬～下旬に来遊する可能性があるが、来遊量は極めて少ない。
- ・三陸海域では、10月下旬になると、来遊があるが、来遊量は極めて少ない。
- ・常磐海域では、来遊量が少なく漁場は形成されない。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、藤井
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

2019年度 第4回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2019年10月中旬から11月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

8月下旬～9月下旬は、道東海域よりも沖合の公海にしか魚群が分布していなかった。道東海域よりも東沖の公海では、9月中旬よりも漁場は西側へ広がり、9月下旬に落石東260海里で少ないながらも漁場ができたことから、10月中旬～10月下旬に沖合から道東海域に魚群が来遊する可能性もある。しかし来遊量は極めて少なく、来遊は断続的である。多くの魚群は、道東海域よりも東～南側を南下する。11月上旬以降は、魚群の来遊が少なく、終漁となる。

(2) 漁場

10月中旬の主漁場は道東海域より東側の公海となる。道東海域では、10月中旬～10月下旬に、襟裳岬東～南東沖の、沿岸から離れた沖合に散発的に漁場が形成される。11月上旬は、漁場は形成されない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月中旬は、来遊は無い。10月下旬～11月下旬も来遊量は極めて少なく、来遊は断続的である。多くの魚群は、三陸海域よりも東側を南下する。

(2) 漁場

10月下旬～11月下旬に漁場が形成される可能性があるが、漁場は三陸沿岸から離れた沖合である。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

10月中旬～11月上旬は、来遊は無い。11月中旬～下旬は、来遊があっても少なく、断続的である。

(2) 漁場

来遊量が少なく、10月中旬～11月下旬は、漁場が形成されない。

2. 予測の概要

海 域		10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
道東海域	来遊量	— →	— →			
	動向	断続的	断続的			
	漁 場	襟裳岬東～ 南東沖	襟裳岬東～ 南東沖			
三陸海域	来遊量		— →	— →	— →	— →
	動向		断続的	断続的	断続的	断続的
	漁 場		三陸沖合	三陸沖合	三陸沖合	三陸沖合
常磐海域	来遊量				— →	— →
	動向				断続的	断続的
	漁 場					

3. 漁況の経過概要（9月下旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

道東海域～花咲港東北東沖では、操業できるような魚群を発見できなかった。これらのことから道東海域～花咲港東北東沖における来遊量は前旬に引き続き極めて少ない。主漁場は、落石東の6ヶ所に広がって形成されたことから、道東海域よりもかなり沖合の公海にしか魚群が分布していなかった。一方、9月下旬よりも漁場は西に広がり、また落石東460～500海里付近において30日夜にややまとまって漁獲できた船もあったことから、道東海域より東側の海域においては、9月中旬よりも来遊量は増加した。しかし、来遊量は極めて少なかった。

(2) 漁場

道東海域に漁場は形成されなかった。主漁場は、道東海域より東側の6ヶ所で、落石東260海里、落石東380海里、落石東460～500海里、落石東南東520海里、落石東北東560海里および落石東南東700～730海里であった。

落石東260海里（漁場水温16℃）では、21日夜に大型船小型船が数隻操業し、大型船で最高5トン、平均3トン漁獲した。

落石東380海里（漁場水温15～16℃）では、26日夜以降、大型船数隻～10隻程度と小型船10隻程度操業し、大型船で最高4トン、平均2トン漁獲した。

落石東460～500海里（漁場水温15～17℃）では、大型船数隻～20隻程度と小型船数隻操業し、大型船で最高60トン、平均10トン漁獲した。

落石東南東520海里（漁場水温15～16℃）では、29日夜以降、大型船10隻程度操業し、最高28トン、平均9トン漁獲した。

落石東北東560海里（漁場水温14～16℃）では、22日夜に大型船10隻程度操業し、最高13トン、平均7トン漁獲した。

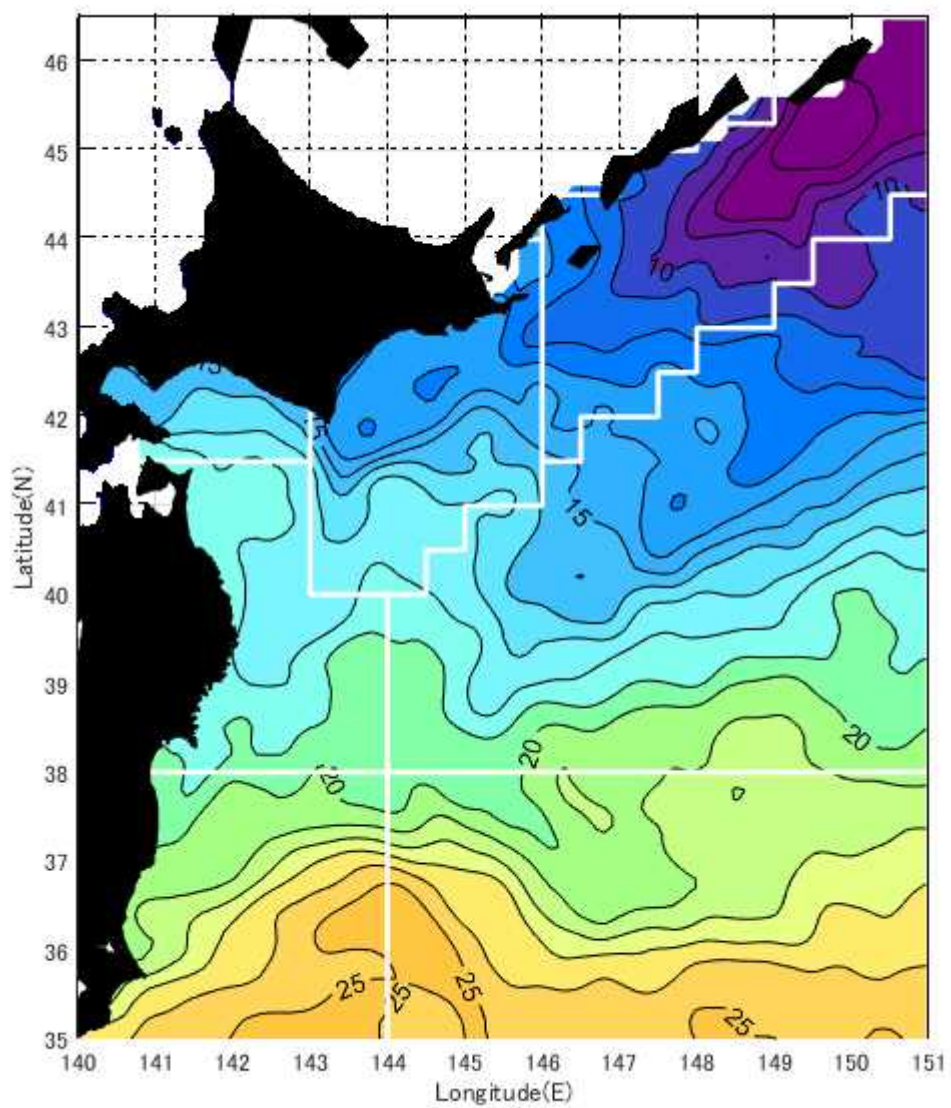
落石東南東700～730海里（漁場水温15～16℃）では、大型船数隻～40隻程度操業し、最高43トン、平均8トン漁獲した。

(3) 魚体

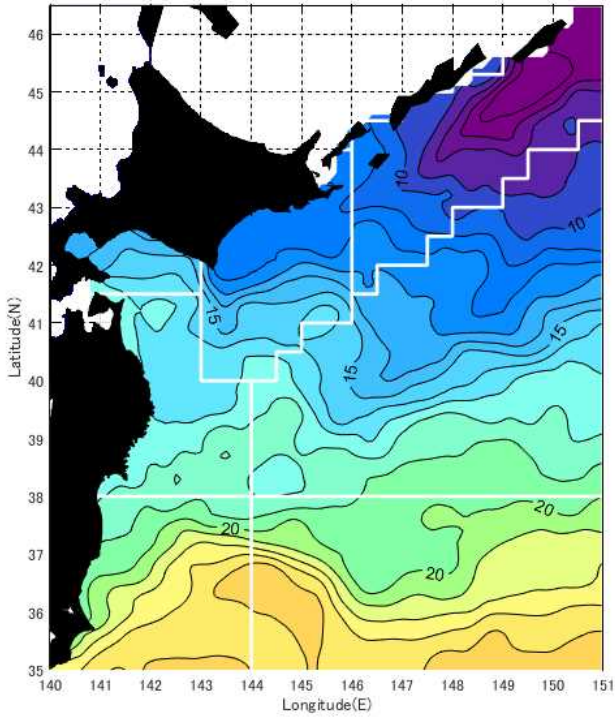
道東海域よりも東側の、落石東沖では、体長29～30cmモードであり、場所により体長27cmモードも混じった。体長29cm以上の魚の体重は100～130g台が主体であった。また落石東460～500海里において、体重120～130gモードも出現した。

4. 予測水温分布図

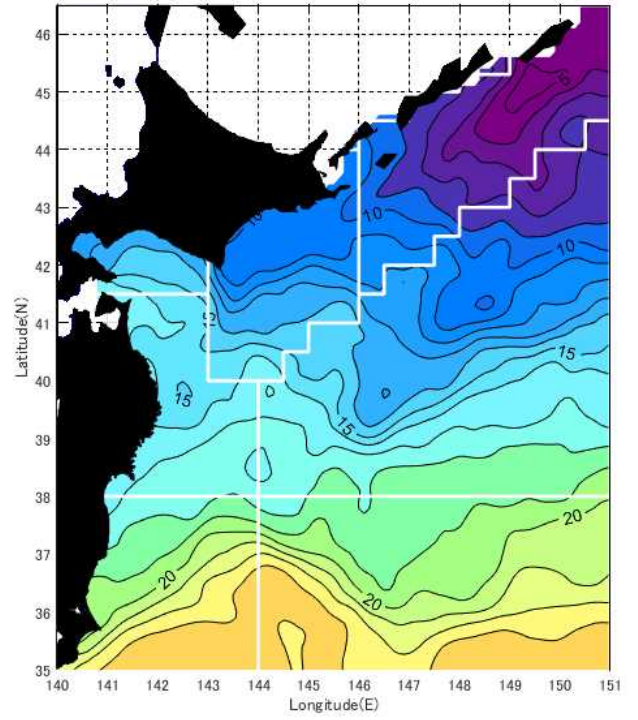
10月中旬予測表面水温分布図



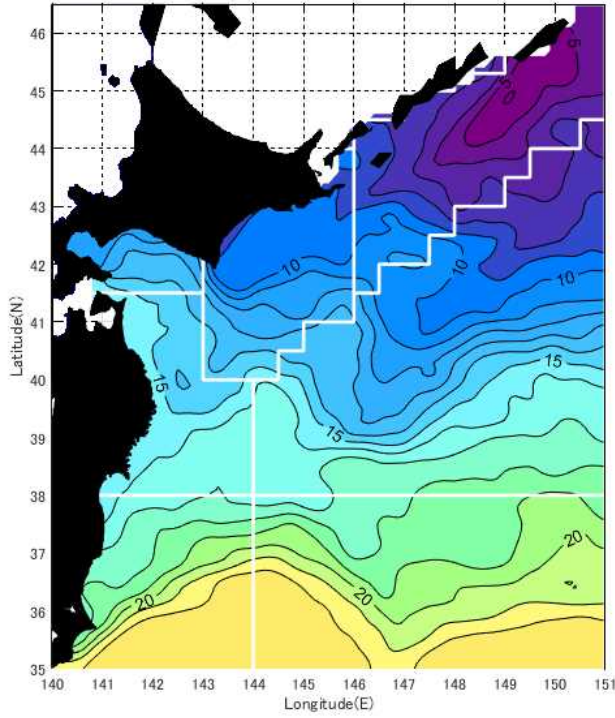
10月下旬予測表面水温分布図



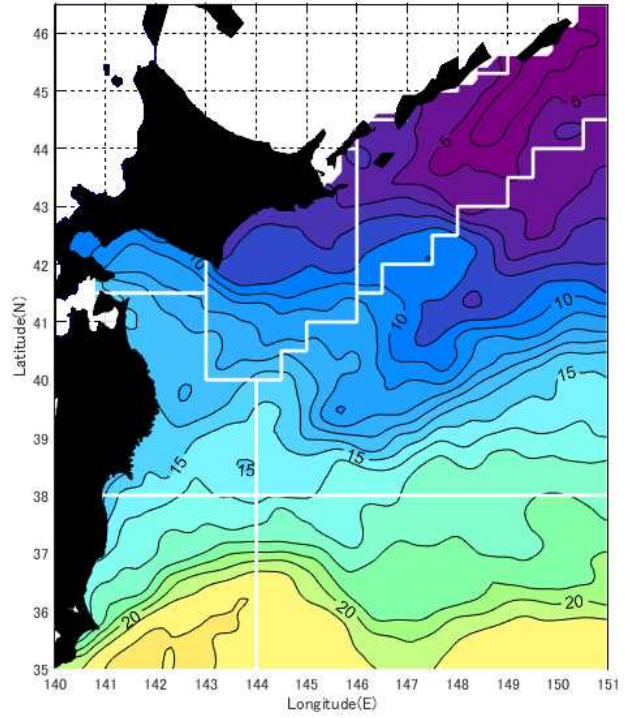
11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



11月下旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	--